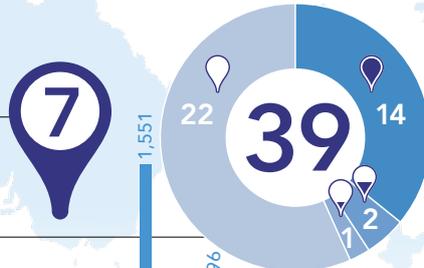


地域セグメント一覧

アジア・オセアニア

▶ P.16

展開国数



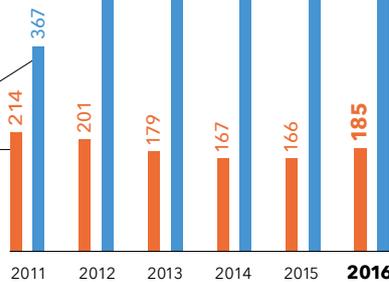
プロジェクト数

- 生産プロジェクト
- 開発プロジェクト
- 開発準備作業中プロジェクト
- 探鉱プロジェクト
- その他のプロジェクト

埋蔵量／生産量

確認埋蔵量(百万バレル(原油換算))

ネット生産量(千バレル/日(原油換算))



売上高／営業利益

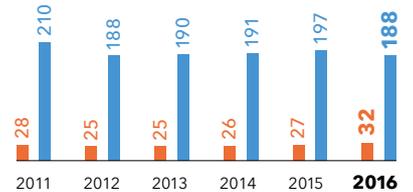
売上高(単位:百万円)

営業利益(単位:百万円)



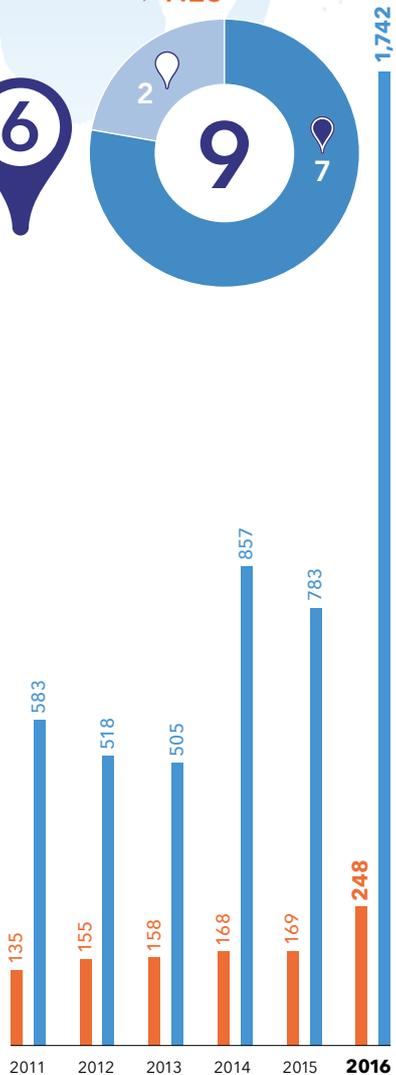
ユーラシア

▶ P.24



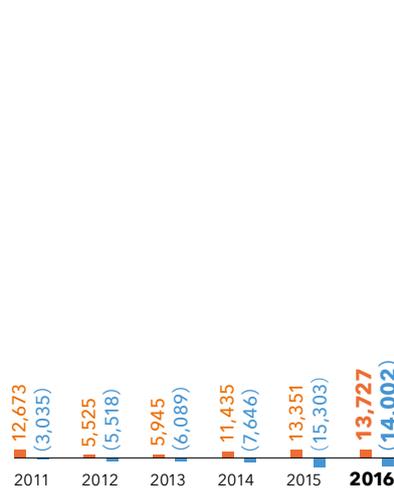
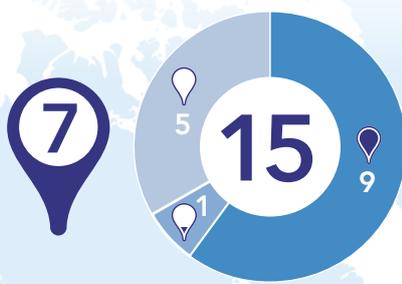
中東・ アフリカ

▶ P.26



米州

▶ P.28



日本

▶ P.30



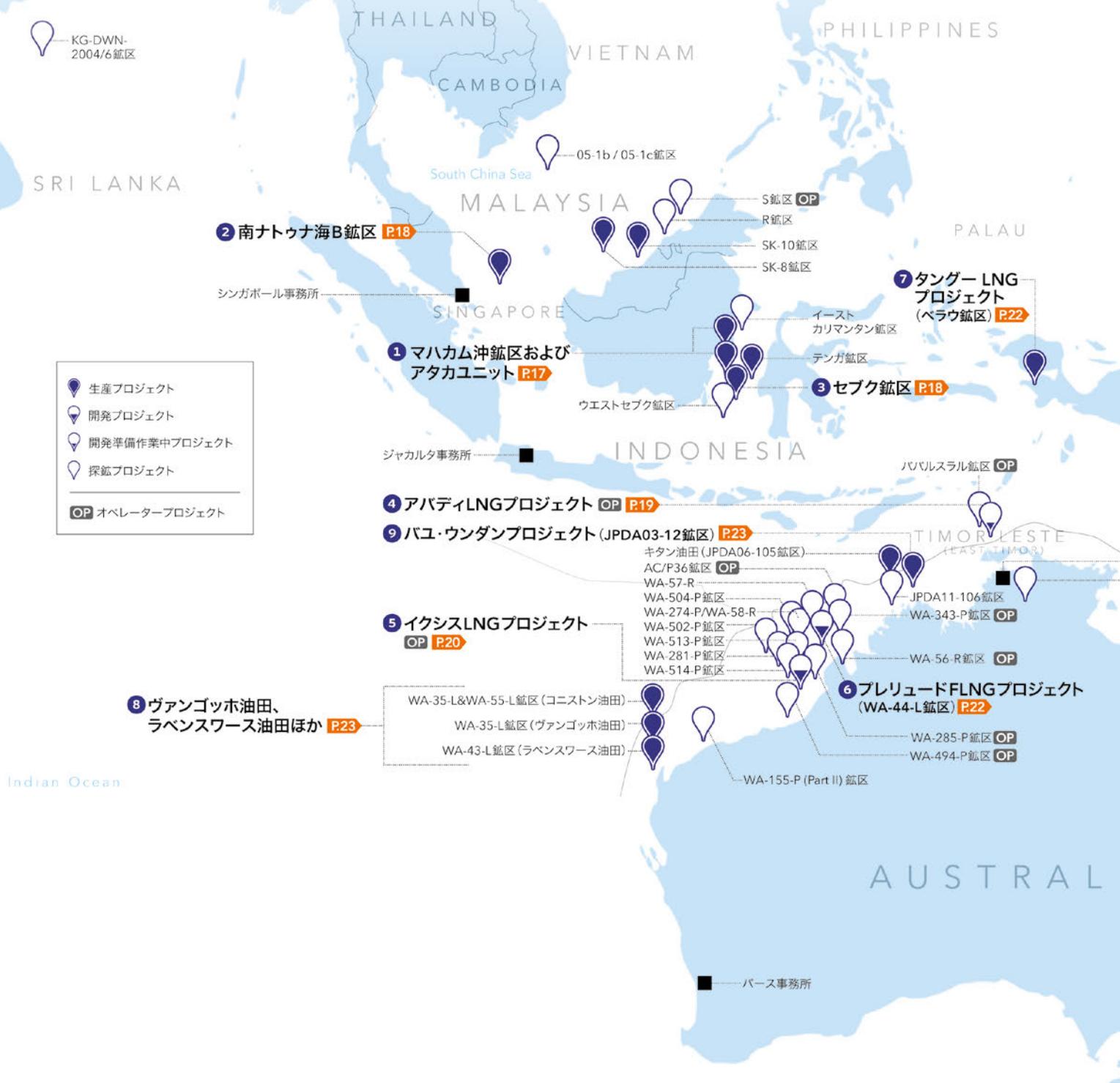
南長岡ガス田
直江津LNG基地
天然ガスパイプライン
ネットワーク
(約1,400km)
など



地域別プロジェクトの状況

アジア・オセアニア

アジア・オセアニア地域では、大型プロジェクトとして、利益貢献が大きいインドネシアのマハカム沖鉱区、開発作業および開発準備作業を進めている大型LNGプロジェクトのイクシス、アバディ等を保有しています。また、20以上の探鉱プロジェクトを推進しており、将来のポテンシャルも期待できます。



① マハカム沖鉱区およびアタカユニット

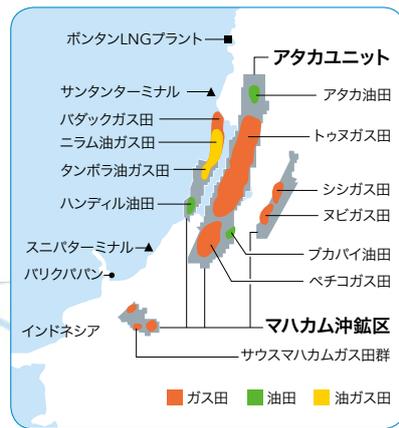
当社は1966年10月にインドネシア政府と生産分与契約を締結し、マハカム沖鉱区の100%権益を取得しました。アタカユニットは、1970年4月に当社およびUnocal社（現Chevron社）が50%ずつの権益比率で双方の隣接鉱区の一部を統合して設定され、1972年から原油・天然ガスの生産を続けています。マハカム沖鉱区では、1970年7月に当社権益の50%をCFP社（現TOTAL社）に譲渡しました。そ

の後、ブカバイ油田、ハンディル油田、タンボラ油ガス田、トゥヌガス田、ペチコガス田、シシ・ヌビガス田およびサウスマハカムガス田などが順次発見され、以降、各油・ガス田で原油・天然ガスの生産を続けています。生産された原油とコンデンセートは、積み出し基地であるサンタンターミナル、およびスニパターミナルから日本の石油精製会社、電力会社などへ出荷しています。天然ガスは主にボンタンLNGプラントへ

供給し、LNGとして日本をはじめとする需要家向けに出荷しています。

マハカム沖鉱区は生産開始からすでに40年以上経過し、生産減退期に入っており、2012年には自然減退に加え、生産井の生産障害が発生したため生産量が大きく落ち込みました。その後、出砂対策の進展や開発井掘削の加速により生産減退を抑制していますが、今後も生産量は漸減していく予定です。

契約地域（鉱区）	作業状況（生産量、2016年3月期平均、全鉱区ベース）	事業会社（設立）	権益比率（*オペレーター）
マハカム沖	生産中（原油：日量73千bbl 天然ガス：日量1,452百万cf LPG：日量7千bbl）	国際石油開発帝石（株）（1966年2月21日）	同社 50% *TOTAL 50%
アタカユニット			同社 50% *Chevron 50%



1:昇圧施設 2:坑井掘削作業中の海洋プラットフォーム

② 南ナトゥナ海B鉱区

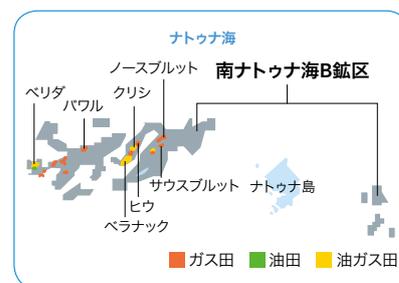


FPSO船

当社は、1977年7月にインドネシア南ナトゥナ海B鉱区の権益17.5%を取得し、その後1994年1月の権益追加取得により現在の参加権益比率は35%となっています。原油生産は1979年から開始し、天然ガスについては、インドネシア初の海外向けパイプラインにより、2001年からシンガポール向けに供給しています。2002年には新たにマレーシア向けのガス販売を開始し、これを受け生産分与契約が2028年まで延長されました。

同鉱区のベラナック油ガス田では、世

界有数規模のFPSOにより2004年12月から原油・コンデンサート、2007年4月からLPGの生産を行っています。また、同鉱区では、2006年以降ヒウガス田、クリシ油ガス田、ノースブルットガス田、パワルガス田から生産を開始しています。最近では2014年4月に同鉱区のサウスブルットガス田で生産を開始しました。



契約地域(鉱区)	作業状況(生産量、2016年3月期平均、全鉱区ベース)	事業会社(設立)	権益比率(*オペレーター)
南ナトゥナ海B	生産中 (原油:日量22千bbl 天然ガス:日量253百万cf LPG:日量9千bbl)	ナトゥナ石油(株) (1978年9月1日)	同社 35% *ConocoPhillips 40% Chevron 25%

③ セブク鉱区ルビーガス田

当社は、2010年9月にインドネシア南マカッサル海域セブク鉱区権益の15%を取得しました。その後、同鉱区のルビーガス田の開発作業を進め、2013年10月に同ガス田からの天然ガスの生産を開始しました。生産した天然ガスは、洋上生産施設から海底パイプラインによりマハカム沖鉱区からの生産物が集積されている既存陸上施設へ輸送し、さらに陸上パイプラインを経由して主に東カリマンタン地域の肥料工場向けに供給しています。



契約地域(鉱区)	作業状況(生産量、2016年3月期平均、全鉱区ベース)	事業会社(設立)	権益比率(*オペレーター)
セブク	生産中(天然ガス:日量91百万cf)	インベックス 南マカッサル石油(株) (2010年5月17日)	同社 15% *PEARL OIL (Sebuku) Ltd. 70% TOTAL 15%



ルビーガス田の洋上生産施設

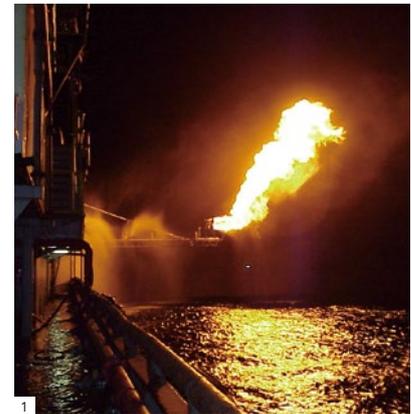
4 アバディLNGプロジェクト

当社はインドネシア政府の公開入札により、1998年11月にマセラ鉱区の100%権益を取得しました。その後、オペレーターとして探鉱作業を推進し、2000年に掘削した試掘第1号井によりアバディガス田を発見しました。アバディガス田の発見を受け、2002年に2坑、2007年から2008年にかけて4坑の評価井掘削作業を実施し、いずれもガス・コンデンサート層の広がりを確認しました。

2010年12月に、LNG年産250万トンフローティングLNG (FLNG) 方式で開発する第一次開発計画 (POD-1) がインドネシア政府より承認され、その後、2012年11月から2014年11月にかけて海底生産施設およびFLNGの基本設計 (FEED) 作業を実施しました。

また、開発可能埋蔵量の増加を図るため、2013年から2014年にかけて追加評価井3坑を掘削した結果、天然ガス埋蔵

量の増大が確認され、インドネシア当局から承認を得ました。当社は、埋蔵量の増大およびコンセプトセレクションのスタディ等で大型FLNGによる開発が最適と考え、2015年9月にLNG年産750万トン規模のFLNGによる改定開発計画をインドネシア政府当局に提出しましたが、2016年4月にインドネシア政府当局より陸上LNGによる開発計画に変更すべく再検討を求める内容の通知を受領しました。当社としては、早期のプロジェクト実現を目指していくとの方針を維持し、技術的、経済的に最も合理的な選択を行ってプロジェクトを進めていく方針です。こうした基本方針に則り、陸上方式を含めてどのような形であれば最適開発が実現可能となるのかについての検討作業を行っており、今後パートナーのShell社やインドネシア政府当局とも協議を実施してまいります。



契約地域(鉱区)	作業状況	事業会社(設立)	権益比率(*オペレーター)
マセラ	開発準備中	インベックスマセラアラフラ海石油(株)(1998年12月2日)	*同社 65% Shell 35%



1:生産テストの様子 2:アバディの掘削船

5 イクシスLNGプロジェクト、および周辺鉱区

イクシスLNGプロジェクトの概要

当社は、1997年の公開入札にてWA-285-P鉱区（西豪州キンバリー地区の沖合約200km）に応札し、1998年8月に同鉱区の探鉱権を取得しました。2000年3月から実施した第一次掘削キャンペーンにて試掘井3坑を掘削したところ、同鉱区にてガス・コンデンセートの存在を確認しました。以降、三次元地震探鉱作業、第二次掘削キャンペーン、追加2坑井の掘削等を実施し、これらの作業により商業開発に十分なガス・コンデンセートの可採埋蔵量を確認しました。その後、2009年より開発移行にあたっての基本設計作業、政府許可の取得、LNGのマーケティング活動等を実施、2012年1月に最終投資決定（FID）を行い、本格的な開発作業に移行しました。

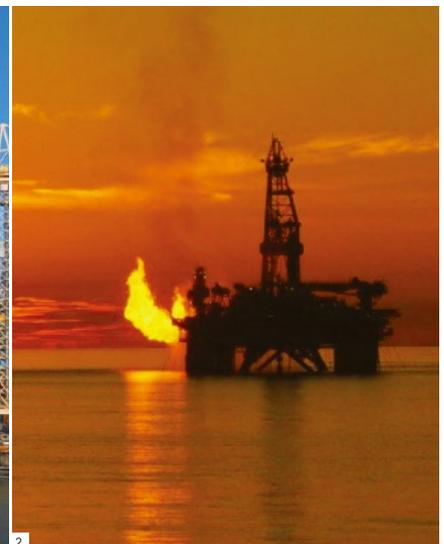
開発作業の状況

2016年3月時点の作業進捗率は約84%となっています。沖合施設については、引き続き沖合生産・処理施設（CPF）、沖合生産・貯油出荷施設（FPSO）の建造作業を進めており、双方ともトップサイドモジュールの搭載を完了し、現在、内部工事や作動試験を行っています。なお、CPFおよびFPSOを洋上に係留するためのチェーンは、2016年4月に設置を完了しています。その他の沖合関連作業として、イクシスガス・コンデンセート田からダーウィンの陸上施設を結ぶ全長約890kmのガス輸送パイプラインは、2015年11月に敷設作業を完了しました。また、生産井の掘削作業を継続しています。陸上施設については、1基目のトレイン（天然ガス液化施設）の全モジュールの搬入設置を終え、現在、接続作業を実

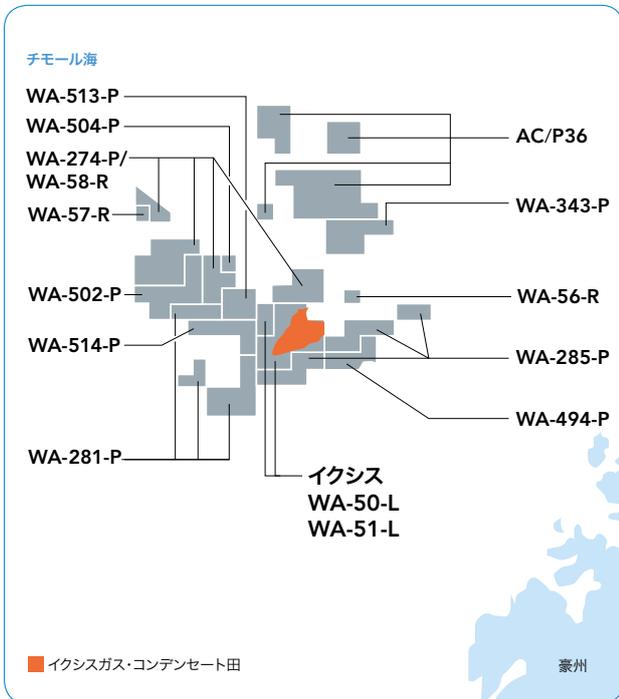
施しています。また、2016年6月時点で合計200を超えるモジュールの9割の設置を終えています。沖合施設・陸上施設ともに運転開始に向けて、安全に最大限の注意を払いつつ、同時にさまざまな作業を進めています。

イクシス周辺探鉱鉱区

当社はイクシスガス・コンデンセート田周辺に12の探鉱鉱区を保有し、現在探鉱活動を実施しています。このうち3鉱区（WA-56-R、WA-281-P、WA-274-P）ですでにガスの発見をしており、これらの発見について現在評価作業を行っています。今後の探鉱・評価作業により相当量の原油・天然ガスが確認された場合には、イクシスLNGプロジェクトとの相乗効果など、事業のさらなる拡大が期待されます。



1: FPSO建造作業の様子 2: 生産井掘削作業“ENSCO5006” 3: 海底坑口装置設置作業の様子 4: CPF建造作業の様子



契約地域 (鉱区)	作業状況	事業会社 (設立)	権益比率 (*オペレーター)
WA-50-L	開発中	INPEX Ichthys Pty. Ltd. (2011年4月5日)	*同社62.245% TOTAL30.000% CPC2.625%
WA-51-L			東京ガス1.575% 大阪ガス1.200% 関西電力1.200% 中部電力0.735% 東邦ガス0.420%
WA-285-P	探鉱中		*同社60% TOTAL40%
WA-343-P			*同社60% TOTAL40%
WA-56-R	探鉱中 (油・ガスの胚胎を確認)	INPEX Browse E&P Pty. Ltd. (2013年10月21日)	*同社50% Murphy50%
AC/P36	探鉱中		*同社100%
WA-494-P	探鉱中		同社20% *Santos30% Chevron50%
WA-274-P/ WA-58-R	探鉱中 (油・ガスの胚胎を確認)		同社20.0000% *Santos47.8306% Chevron 24.8300% Beach 7.3394%
WA-281-P	探鉱中 (油・ガスの胚胎を確認)		同社20% *Santos30% Chevron50%
WA-57-R	探鉱中		同社40% *Santos60%
WA-502-P			同社40% *Santos60%
WA-504-P			同社40% *Santos60%
WA-513-P			同社40% *Santos60%
WA-514-P			同社40% *Santos60%



5:ガス輸送パイプライン敷設作業の様子 6:陸上ガス液化プラント建設工事の様子 7:FPSOのフレアタワー設置作業の様子 8:陸上ガス液化プラントのモジュール設置作業の様子 9:陸上ガス液化プラント全景

⑥ プレリウドFLNGプロジェクト(WA-44-L鉱区)

当社は、2012年6月にShell社が豪州北西部沖で開発中のプレリウドFLNGプロジェクトの権益17.5%を取得しました。プレリウドFLNGプロジェクトは、西豪州ブルーム市の北北東約475kmの沖合にあるWA-44-L鉱区のプレリウドガス

田およびコンチェルトガス田より、LNG年間360万トン、LPG年間約40万トン(ピーク時)、コンデンセート日量約3.6万bbl(ピーク時)をFLNG方式により生産・液化・出荷するプロジェクトです。

オペレーターのShell社は、2011年5

月に世界初となるFLNG方式による最終投資決定を行いました。2007年はじめのプレリウドガス田発見からおよそ10年での生産開始を目標とし、現在開発作業を進めています。



FLNG船

契約地域(鉱区)	作業状況	事業会社(設立)	権益比率(*オペレーター)
WA-44-L	開発中	INPEX Oil & Gas Australia Pty. Ltd. (2012年2月28日)	同社 17.5% *Shell 67.5% KOGAS 10.0% CPC 5.0%

⑦ タンゲーLNGプロジェクト(ベラウ鉱区)

当社と三菱商事(株)が共同出資で設立したMI Berau B.V.社は、2001年10月にベラウ鉱区の権益を取得しました。その後、2007年10月に三菱商事(株)と共同出資で設立したMIベラウジャパン(株)を

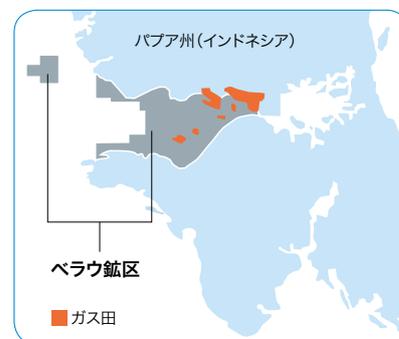
通じたケージーベラウ石油開発(株)の株式取得により、タンゲーLNGプロジェクトに保有する当社分の実質的な権益比率を約7.79%に増加させています。

タンゲーLNGプロジェクトは、2005年

3月にプロジェクトの開発計画および生産分与契約の延長(~2035年)がインドネシア政府に承認され、その後、開発作業を行い、2009年7月よりLNGの出荷を行っています。



出荷施設



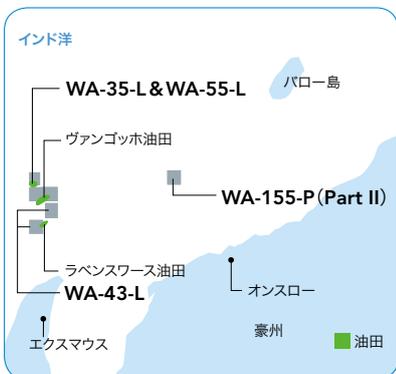
契約地域(鉱区)	作業状況(生産量、2016年3月期平均、全鉱区ベース)	事業会社(設立)	権益比率(*オペレーター)
ベラウ	生産中	MI Berau B.V. (2001年8月14日)	同社 22.856% *BP 48.0% 日石ベラウ 17.144% KGベラウ 12.0%
タンゲーユニット	(原油:日量6千bbl 天然ガス:日量1,035百万cf)		同社 16.3% *BP 37.16% CNOOC 13.9% 日石ベラウ12.23% KGベラウ 8.56% LNG Japan 7.35% Talisman 3.06% KGウィリアムガール 1.44%

8 ヴァンゴッホ油田、ラベンスワース油田ほか

当社が1999年7月に取得した西豪州沖合WA-155-P (Part I) 鉱区では、その後の探鉱作業でヴァンゴッホ油田およびラベンスワース油田が発見され、それぞれWA-35-L、WA-43-L鉱区として生産ライセンスを取得しました。その後、2010年2月、8月からそれぞれの油田で原油の生産を開始しています。WA-35-L鉱区、およびWA-55-L鉱区にまたがるコニストン油田では、2011年12月から開発作業を行い、2015年5月に原油の生産を開始しました。



ヴァンゴッホFPSO



契約地域 (鉱区)	作業状況 (生産量、2016年3月期平均、全鉱区ベース)	事業会社 (設立)	権益比率 (*オペレーター)
WA-35-L (ヴァンゴッホ限定エリア)	生産中 (原油: 日量15千bbl)		同社 47.499% *Quadrant 52.501%
WA-35-L&WA-55-L鉱区			同社 47.499% *Quadrant 52.501%
WA-43-L (ラベンスワース油田)	生産中 (原油: 日量11千bbl)	アルファ石油 (株) (1989年2月17日)	同社 28.5% *BHPBP 39.999% Quadrant 31.501%
WA-155-P (Part II)	探鉱中		同社 18.670% *Quadrant 40.665% OMV 27.110% JX 7.000% Tap 6.555%

9 バユ・ウングダンプロジェクト (JPDA03-12 鉱区)

当社は1993年4月に豪州と東チモールの共同管理下にあるチモール海共同石油開発地域 (JPDA) の JPDA03-12 鉱区の権益を取得しました。その後の探鉱作業を通じて複数の原油・ガスを発見

し、そのうち、ウングダン構造では、隣接する JPDA03-13 鉱区のバユ構造と一体であることが判明したため、両鉱区の権益保有者が1999年にユニタイゼーションを行い、バユ・ウングダン・ガスコンデンセート田

として共同開発を開始しました。その後、同プロジェクトでは2004年よりコンデンセートおよびLPG、2006年2月よりLNGを生産・出荷しています。



バユ・ウングダン海上生産施設



契約地域 (鉱区)	作業状況 (生産量、2016年3月期平均、全鉱区ベース)	事業会社 (設立)	権益比率 (*オペレーター)
JPDA03-12 バユ・ウングダン ユニット	生産中 (原油: 日量21千bbl 天然ガス: 日量586百万cf LPG: 日量13千bbl)	サウル石油 (株) (1993年3月30日)	同社 19.2458049% *ConocoPhillips 61.3114766% Santos 19.4427185% 同社 11.378120% *ConocoPhillips 56.943372% Eni 10.985973% Santos 11.494535% Tokyo Timor Sea Resources (東京電力/東京ガス) 9.198000%

ユーラシア

ユーラシア地域には、大規模な原油プロジェクトであるアゼルバイジャンのACGプロジェクト、カザフスタンのカシャガンプロジェクトがあります。また、積極的な探鉱活動を進めており、グリーンランド、ロシア極東地域などで探鉱プロジェクトを取得し、作業を進めています。



① 北カスピ海沖合鉱区 (カシャガン油田ほか)

当社は、1998年9月にカザフスタン北カスピ海沖合鉱区の権益を取得しました。北カスピ海沖合鉱区は、東部約4,300km²、西部約1,275km² (合計約5,575km²) の2つの鉱区より構成され、うち東部の鉱区にあるカシャガン油田は、カザフスタン共和国アティラウ市から南東約75kmのカスピ海域上、水深3～5mの位置にあります。

同鉱区では、1999年9月より試掘第1号井を掘削し、その後2000年にカシャガン油田を確認、2002年に商業発見宣言を行いました。カシャガン油田では、その後の開発作業を経て、2013年9月

より原油の生産を開始しましたが、その後、パイプラインからのガスリークにより現在生産を一時停止しています。

また、カシャガン油田のほか、周辺のカラムカス、アクトテ、カイランの各構

造において炭化水素の存在が確認されており、カシャガン油田の開発と並行してこれら既発見構造の評価作業を進め、同鉱区からのさらなる生産拡大を検討しています。



海上施設

契約地域 (鉱区)	作業状況	事業会社 (設立)	権益比率
北カスピ海沖合	生産一時停止中	インベックス北カスピ海石油 (株) (1998年8月6日)	同社 7.56% Eni 16.81% ExxonMobil 16.81% KMG 16.87% Shell 16.81% TOTAL 16.81% CNPC 8.33%

② ACG油田



海上生産施設

当社は、2003年4月にアゼルバイジャン南カスピ海沖合のACG (Azeri・Chirag・Gunashli アゼリ・チラグ・グナシリ) 油田の権益を取得しました。現在、

チラグ、アゼリ中央部・西部・東部、グナシリ深海部およびチラグ西部より原油生産を行っています。

契約地域 (鉱区)	作業状況 (生産量、2016年3月期平均、全鉱区ベース)	事業会社 (設立)	権益比率 (*オペレーター)
ACG	生産中 (原油: 日量632千bbl)	インベックス 南西カスピ海石油 (株) (1999年1月29日)	同社 10.96% *BP 35.78% Chevron 11.27% SOCAR 11.65% Statoil 8.56% ExxonMobil 8.00% TPAO 6.75% 伊藤忠商事 4.30% ONGC 2.72%

ザバドナ・ヤラクチンスキー鉱区
ポリシェチルスキー鉱区

Sea of Okhotsk

サハリン・プロジェクト

RUSSIA



4

セグメント概況

③ BTCパイプラインプロジェクト

BTCパイプラインは、カスピ海沿岸のアゼルバイジャンのバクー (Baku) を起点とし、トルコのジェイハン (Ceyhan) に至る総延長約1,770kmの原油輸送パイプラインで、2006年6月より本格稼働しています。輸送能力は日量120万バレルで、主にアゼルバイジャンのACG油田で生産される原油を輸送しています。

イブラインで、2006年6月より本格稼働しています。輸送能力は日量120万バレルで、主にアゼルバイジャンのACG油田で生産される原油を輸送しています。

契約地域 (鉱区)	事業会社 (設立)	権益比率 (*オペレーター)
BTCパイプライン	INPEX BTC Pipeline, Ltd. (2002年10月16日)	同社 2.5% *BP 30.1% Azerbaijan (BTC) Limited 25% Chevron 8.9% Statoil 8.71% TPAO 6.53% Eni 5% TOTAL 5% 伊藤忠商事 3.4% CIECO 2.5% ONGC 2.36%



出荷ターミナル

中東・アフリカ

中東地域では、U.A.E.アブダビのADMA鉦区、2015年4月から参加しているADCO鉦区などが、原油生産量の面で大きく貢献しています。また、アフリカ地域では、アンゴラ共和国ブロック14等にて原油の生産を行っています。



① ADMA鉦区

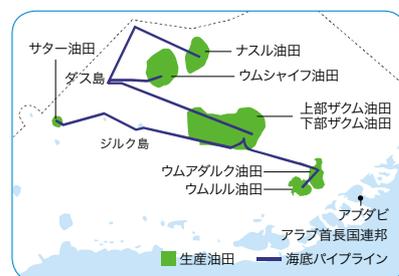


シルク島

当社は、2004年5月に、石油公団(当時)が保有するジャパン石油開発(株)(JODCO)の全株式を株式交換により取得し、同社を完全子会社化しました。同社が参加するU.A.E.アブダビ沖のADMA鉦区権益では現在7つの油田より原油を生産しています。

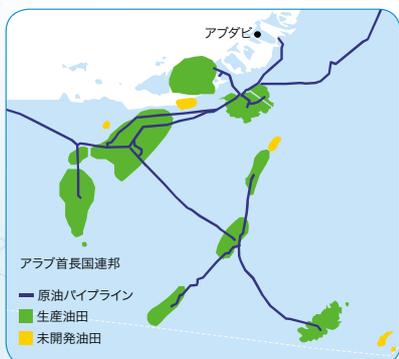
また現在、生産量維持・拡大のため、人工島を利用した上部ザクム油田の再開発作業、ならびにウムルルおよびナスル油田

の全体開発を目的としたフェーズ2開発作業などの諸作業が行われています。



契約地域(鉦区)	作業状況	事業会社(設立)	権益比率
ウムシャイフ油田、下部ザクム油田、ウムルル油田、ナスル油田	生産中	ジャパン石油開発(株) (1973年2月22日)	同社 12% ADNOC 60% BP 14.67% TOTAL 13.33%
上部ザクム油田			同社 12% ADNOC 60% ExxonMobil 28%
ウムアダルク油田			同社 12% ADNOC 88%
サター油田			同社 40% ADNOC 60%

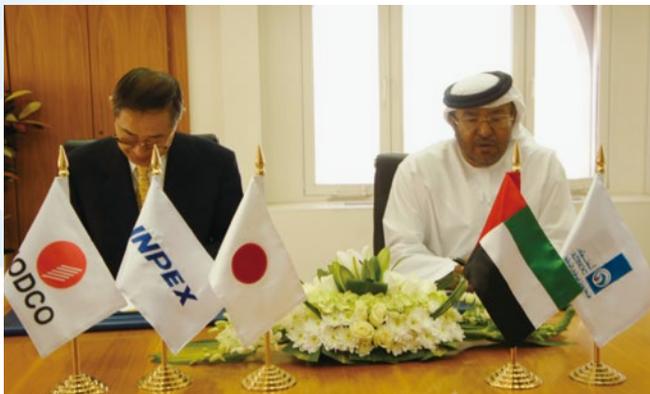
2 ADCO 鉦区



当社は、子会社のジャパン石油開発(株)を通じてアブダビ首長国陸上のADCO鉦区に係る入札に参加のうえ、2015年4月に同鉦区の5%の参加権益を取得し、2015年1月1日からの40年間を契約期間とする利権契約を同国政府およびアブダビ国営石油会社(ADNOC)と締結し

ました。同鉦区は、アブダビの陸上に位置する11の生産油田と4つの未開発油田から構成される世界でも有数の巨大油田群です。現在、生産能力を日量180万バレルへと引き上げるべく、開発作業を進めています。

契約地域(鉦区)	作業状況	事業会社(設立)	権益比率
ADCO鉦区	生産中	JODCO Onshore Limited (2015年4月15日)	同社5% 他



利権契約署名式の様子(2015年4月)



陸上パイプライン

3 アンゴラ共和国ブロック14



生産施設

当社は2013年2月、アンゴラ共和国ブロック14(原油生産鉦区)にTOTAL社との合併会社を通じて参画し、9.99%の権益を間接的に取得しました。ブロック14は、同国カビンダ州の沖合約100kmに位置する既発見未開発構造を含む原油生産鉦区で、現在4つの開発区域にて原油生産を行っており、鉦区内の探鉦ポテンシャルの追求も行っています。



契約地域(鉦区)	作業状況(生産量、2016年3月期平均、全鉦区ベース)	事業会社(設立)	権益比率(*オペレーター)
アンゴラ共和国ブロック14	生産中(原油:日量109千bbl)	Angola Block 14 B.V. (2012年4月19日)	同社 20%(うち当社権益 9.99%) *Chevron 31% Sonangol 20% Eni 20% Galp 9%

米州

カナダではシェールガスプロジェクト等に参加しているほか、米国メキシコ湾大水深プロジェクト(ルシウス)、ブラジル海上の原油プロジェクトなどを進めています。



① カナダ シェールガスプロジェクト

当社は、2012年8月にカナダ・ブリティッシュ・コロンビア州のホーンリバー、コルドバおよびリアードの各地域に保有するシェールガス鉱区について、Nexen社より、各鉱区の40%の権益を取得しました。

現在一部生産中であり、今後、さらなる開発作業を進めてまいります。また、当社は、産出したシェールガスをLNG化し、カナダ西海岸より輸出するための事業化検討スタディを実施しています。

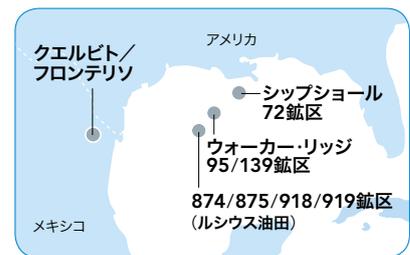


契約地域(鉱区)	作業状況	事業会社(設立)	権益比率(*オペレーター)
ホーンリバー、コルドバ、リアード地域	一部生産中	INPEX Gas British Columbia Ltd. (2011年11月28日)	同社 40% *Nexen 60%

② 米国メキシコ湾周辺鉱区等

当社は2012年8月に、米国メキシコ湾大水深のルシウス油田に参入し、同油田の7.2%権益を米Anadarko社から取得しました。ルシウス油田では、2015年1月に油ガスを生産開始以降、順調に生産を継続しています。

2011年2月には米国メキシコ湾の大水深探鉱プロジェクトであるウォーカー・リッジ95/139鉱区に参入し、試掘井にて原油胚胎を確認し、その後評価井の掘削を実施しています。

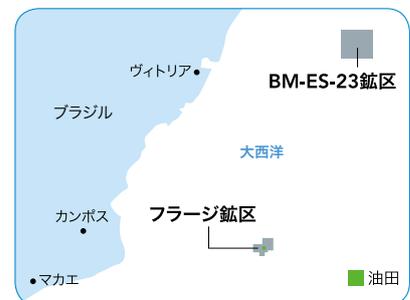


契約地域(鉱区)	作業状況(生産量、2016年3月期平均、全鉱区ベース)	事業会社(設立)	権益比率(*オペレーター)
874/875/918/919鉱区(ルシウス油田)	生産中 (原油:日量71千bbl 天然ガス:日量74百万cf)	Teikoku Oil (North America) Co., Ltd. (2003年5月30日)	同社 7.8% *Anadarko 23.8% その他 68.4%
ウォーカー・リッジ95/139鉱区	探鉱中(油・ガスの胚胎を確認)	INPEX Gulf of Mexico Co., Ltd. (2010年4月28日)	同社 12.29% *Shell 42.37% *Anadarko 25% その他 6.34% (オペレーター:95鉱区Anadarko、139鉱区Shell)

③ ブラジル(フラージ鉱区ほか)

当社と双日(株)が共同出資で設立したブラジル現地法人Frade Japão Petróleo Limitada (FJPL)は、1999年7月にブラジル北カンボス沖合のフラージ鉱区の権益を取得し、2009年6月から生産を開始しています。小規模な油のしみ出しにより2012年3月から生産活動を一時停止しましたが、2013年4月末より安全に配慮しながら原油生産を再開しています。

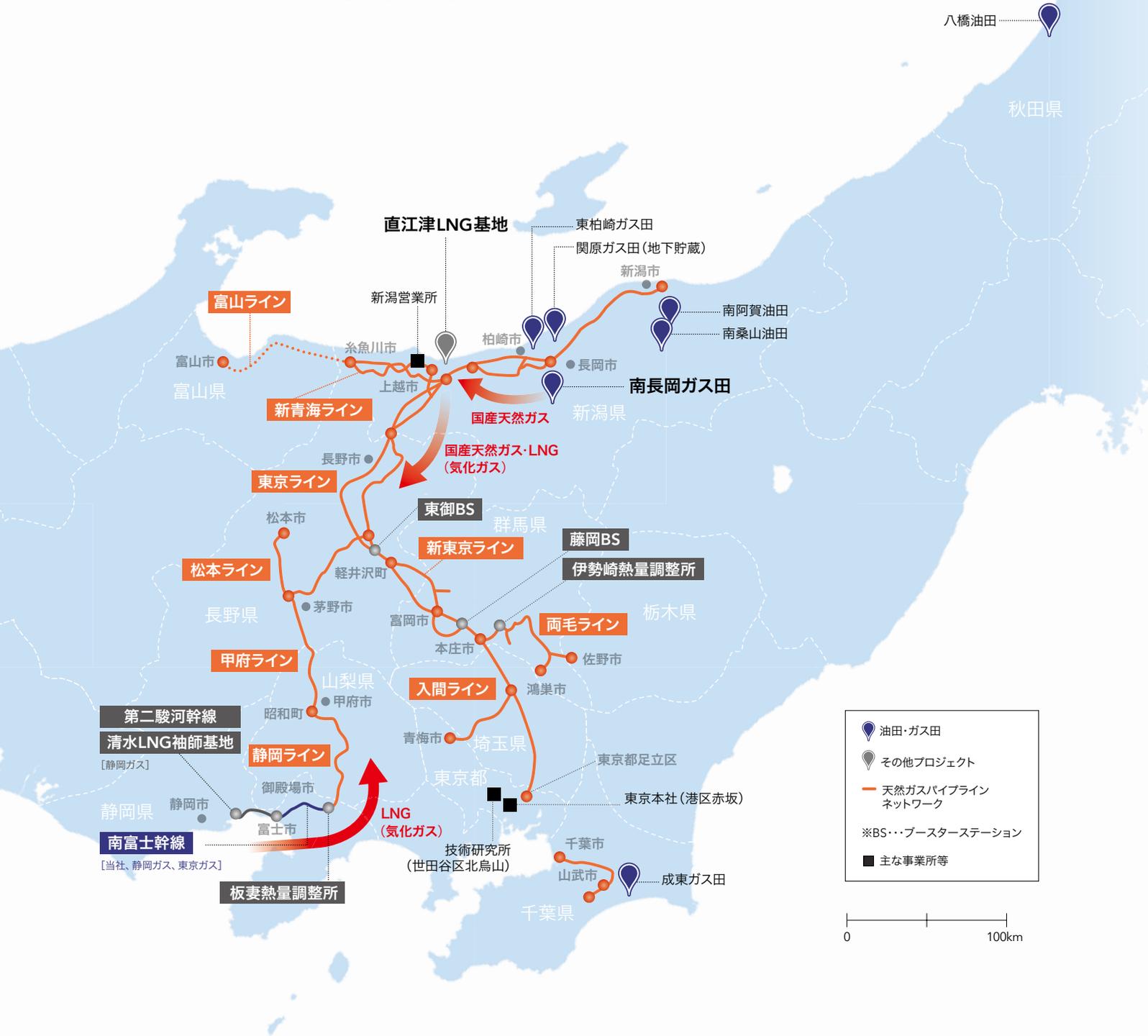
また、2010年2月にブラジル南東沖エスピリトサント堆積盆のBM-ES-23鉱区にて15%の権益を取得、オペレーターのPetrobras社等とともに探鉱事業を推進しています。同鉱区では、これまでに試掘井および評価井にて良好な油・ガス層の存在を確認しており、また2015年に2坑の評価井を掘削し、そのうち1坑にて油層の存在を確認しています。



契約地域(鉱区)	作業状況(生産量、2016年3月期平均、全鉱区ベース)	事業会社(設立)	権益比率(*オペレーター)
フラージ鉱区	生産中(原油:日量23千bbl 天然ガス:日量2百万cf)	Frade Japão Petróleo Limitada (FJPL) (1999年7月5日)	同社 18.2609% *Chevron 51.7391% Petrobras 30%
BM-ES-23鉱区	探鉱中(油・ガスの胚胎を確認)	INPEX Petróleo Santos Ltda. (2007年1月19日)	当社 15% *Petrobras 65% PTTEP 20%

日本

国内最大級である新潟県の南長岡ガス田を中心に石油・天然ガスプロジェクトを進めるとともに、天然ガスパイプラインのオペレーションを行っています。また、新潟県の直江津LNG基地は2013年12月から操業を開始しています。



国内天然ガス事業

国内天然ガス事業は、当社が保有する南長岡ガス田（新潟県）から生産される天然ガスおよび2013年12月に稼働を開始した直江津LNG基地（新潟県）で受け入れたLNGなどを、関東甲信越に広がる約1,400kmの天然ガスパイプラインによって輸送し、沿線の都市ガス事業者や大規模工場等のお客さまに販売する事業です。

当社の天然ガス販売量は、競合エネルギー価格の高騰や天然ガスの環境優位性を背景として着実に拡大してきました。天然ガスは今後も熱源燃料だけでなく、自家発電やコージェネレーション燃料、天然ガス火力発電所燃料、化学製品原料など、多種多様な用途での利用が期待されており、当社は2020年代前半に年間25億m³、長期的には30億m³規模の販売を目指しています。

このため、2016年年央の供用開始に向けて富山ライン（新潟県糸魚川市～富山

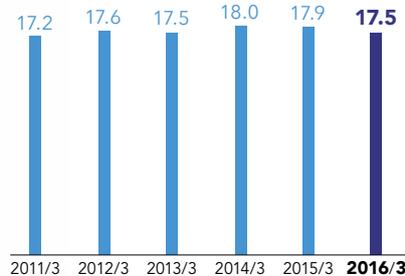
県富山市）の建設工事を進めているほか、2016年4月には電力小売全面自由化を迎え、沿線の都市ガス事業者に対して、中部電力（株）の子会社であるダイヤモンドパワーを通じて電力卸供給を開始し、電気事業に関する新たな取り組みを行っています。

千葉県の成東ガス田では、水溶性ガス田から天然ガスを生産するとともに、天然ガスを分離した後の地下水（かん水）からヨードを製造し欧米などに輸出しています。



国内天然ガス販売量の推移

(億Nm³/年) ※1m³あたり41.86MJ



川を渡る天然ガスパイプライン（新潟浪海川）

再生可能エネルギー等への取り組み

国内の発電事業

当社は、新潟県上越市の閉鎖した当社製油所跡地に最大出力2メガワットの「INPEXメガソーラー上越」を稼働させ、2013年3月から発電を開始しています。また当社グループ会社を通じて、2014年には、隣接地に新たに最大出力2メガワットの太陽光発電所の建設を行い、2015年7月から発電を開始しています。これら太陽光発電所からの発電量は年間約533万kWh/年、一般家庭約1,600世帯分の年間電力消費量相当になる見込みです。

また、当社は、新潟県越路原プラント内に、出力約5万5千kWの高効率ガスタービンコンバインドサイクル火力発電所を建設し、2007年5月より特定規模電気事業者（現：小売電気事業者）向け電力卸供給事業を行っています。

地熱開発

地熱発電とは、地下にあるマグマの熱エネ

ルギーを蒸気として取り出し、その蒸気によりタービンを回し発電するものです。

当社は2011年から出光興産（株）と共同で北海道阿女鱒岳地域、秋田県小安地域において地熱発電に向けた地熱資源調査を開始しました。2012年には三井石油開発（株）の参加を得、2013年から2015年にかけて、阿女鱒岳地域で計4坑、小安地域で計4坑の構造試錐井掘削による地熱資源調査を実施しました。

2016年度も引き続き阿女鱒岳地域で構造試錐井1坑、小安地域でも構造試錐井2坑の掘削による地熱資源調査を継続する予定です。

また、このほかに、福島県における地熱資源調査事業にも参画しており、磐梯山周辺地域において2013年9月より地表調査を実施しています。2014年から2015年にかけて物理探査を実施し、2016年は磐梯地域において調査井2坑を掘削する予定としています。

また、当社は2015年6月より、インドネシアにて地熱プロジェクト（サルーラ地熱IPP（独立系発電事業者）事業）に参加しています。同プロジェクトは、インドネシアスマトラ島北スマトラ州に位置するサルーラ鉱区において、世界最大規模の地熱発電所の開発を行うもので、出力約330メガワットの地熱発電所を建設後、発電する電力をインドネシア国営電力公社へ30年間にわたり売電します。2014年に発電所の建設が開始されており、2016年から段階的に商業運転を開始することを目指しています。



サルーラ地熱IPP事業